

様式第4号（第11項関係）

西脇市審議会等の会議の記録

審議会等の名称	平成30年度第1回西脇市手話施策推進会議
開催日時	平成30年5月30日(水) 午後1時30分～3時30分
開催場所	西脇市生涯学習まちづくりセンター
出席委員の氏名又は人数（敬称略）	嶋本恭規、鳥越隆士、丸山昭彦、川崎佳子、藤原進、大橋正子、藤井啓史、森脇奈穂美、高橋康子、永井寿幸、藤原竜俊、
欠席委員の氏名又は人数（敬称略）	岡崎隆吾
出席職員の職・氏名又は人数	福祉部 部長 細川喜美博 社会福祉課 課長 伊藤景香 社会福祉課 課長補佐 正木万貴子 社会福祉課 設置手話通訳者 勝岡めぐみ
傍聴の人数	13人
協議又は協議事項	(1) 平成29年度手話施策の総括について (2) 平成30年度手話施策の計画について
会議の記録	
発言者	内 容
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・傍聴 西脇市手話施策推進会議傍聴要綱では、傍聴人の定員は原則5人であるが、現在13人の傍聴希望がある。許可することとしてよいか。 了解する。 委員の了解を得て、13人の傍聴を許可する。
部 長	<ul style="list-style-type: none"> ・部長あいさつ
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・委員及び事務局の4月1日付けの人事異動による交代の紹介 ・議事録署名委員の指名 嶋本会長と川崎佳子委員に決定

<p>会 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会長あいさつ <p>今まで色々ご協力いただいたが、また今年度も1年間よろしくお 願いしたい。</p> <p>昨年の12月に国連において「手話言語国際デー」が、9月23日に 決まった。是非、皆さんも覚えていてほしい。</p> <p>また、4月25日に手話を広める全国知事の会というのが、東京の 参議院会館で、手話言語フォーラムも含めて開催された。</p> <p>今後、6月6日「全国手話言語市区長会」も東京の方で開催され る予定になっており、私と兵庫県聴覚障害者協会理事の2人が参加 の予定である。全国から、また兵庫県下の市長もたくさん出席と聞 いており、是非お会いしてごあいさつしたいと思っている。</p> <p>この全国手話言語市区長会の会長の北海道石狩市の田岡市長が、 「手話は言語である、手話というものがあるけれども、日本人の心 に足りないものが何かある。それはお互いに支え合うというそうい う気持ちが少し足りないのではないか？」と話されていたことがと ても印象に残っている。</p> <p>手話言語条例が制定されているところも増えて、頑張っていて誇 りに思う。地域から頑張っていたきたいと思っている。だから皆 さんのご協力をこれからもよろしくお願ひし、私のあいさつとかえ させていただく。</p>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料確認 <ul style="list-style-type: none"> ○会議日配布資料 会議次第、委員名簿、資料1～5、参考資料 ○事前に郵送で配布した資料 「第1回西脇市手話施策推進会議資料」
<p>会 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・協議事項(1)について、事務局から説明を願う。
<p>事務局</p>	<p>(1) 平成29年度手話施策の総括について説明</p>
<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■協議事項(1)に関する質疑応答 <p>昨年12月4日の会議時に、手話体験コーナーで聞こえる方に来て いただいて全く興味を持っていない人がいたのでびっくりしたとい う話をしたと思う。でも、広報を配布した後、興味を持って、呼び 掛けてもちょっと恥ずかしいけど行ってみようという感じで参加さ</p>

<p>会 長</p>	<p>れる方が増えたので、とても嬉しく思っている。やはり、PRがないとなかなか人が集まらないかなと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>これに対して、何か答えを事務局にお返ししてよいか。</p> <p>今日、欠席委員から質問をいただいております、同じような意見なので紹介させていただく。</p> <p>「まず小学生は言葉の発音が重要な時期であり、人と話することでコミュニケーション力が身につく。ところが、耳が聞こえず周りとのコミュニケーションが取れず、口話が十分に育たないまま社会人になった後、言葉のすれ違いが急に増えます。コミュニケーションの発達が未熟で社会に放り出されるような状態です。なぜ、耳の聞こえる人へ合わせる生き方をしなければならないのかと思っています。たとえ時間はかかっても、月一回でも簡単な手話を覚えることからでも、ほんの短い時間でも学べることができれば、手話を使うろう者、耳の聞こえない子を持つ親、言葉を十分身に付けられずに大人になった方々の心につながりができる架け橋となる。これ以上の嬉しさはないと思います。」という意見で、通じるころがあると思う。</p>
<p>委 員</p>	<p>先ほどの市役所の手話体験コーナーは、とても貴重なコーナーだと思っております、次30年度の計画にも入れているが、毎月の開催日を広報に掲載して、もっとPRをしていきたいと考えている。</p> <p>補聴器をすると聞こえるというふうに子ども達は思っている。なぜ聞こえないのかということ子ども達にも理解してほしいなと思う。聞こえないと言っても嘘だろうというふうに捉えられてしまう。聞こえないことへの理解も含めて、子どもだけでなく大人も同じで、そういう間違った理解があると思う。</p>
<p>委 員</p>	<p>手話動画が昨年度に作られたと思うが、これの反響はどんな感じなのか。</p>
<p>委 員</p>	<p>手話動画を観ている人が、手を動かしておられたので、効果はあると思う。聞こえない人と会ってもどういふふうに接したらよいか分からないと思われている方も多いと思うが、市役所にそういう動画があると、関心を持って観られる方がたくさんおられ、効果が</p>

	<p>あると思っている。また、最後に「また続きます」と英語で出ていたので、それで期待をするという気持ちも生まれてくると思う。</p> <p>西脇高校へ福祉学習で行き、手話動画をまたよろしくお願ひしますという、とても喜んだ顔を見せてくださった。</p>
委 員	<p>小中学校での福祉学習は、社会福祉協議会が聴覚障害者協会、手話サークルわかば、のぞみの協力を得て、小学校の4年生を対象として毎年実施している。今年度も継続実施し、もうすでに5月に各小学校、中学校の先生方へ連絡しているので、それぞれ講師と調整をしながら実施していく。</p>
副会長	<p>できれば次回はもう少し実績があればいいと思う。動画配信ユーチューブのアクセス数を是非とも出してほしい。今どれくらいのアクセス数か。</p>
事務局	<p>市の情報の担当に聞かないと、現在のところ把握できていない。</p>
副会長	<p>動画配信は1回だけされているのか。</p>
事務局	<p>そのとおり。今年度から年2本ぐらいずつ継続していきたいと思っている。</p>
副会長	<p>市役所の手話体験コーナーでは、参加者を把握して出してほしい。大体平均、月2回それぞれ何人ぐらいこのコーナーに立ち寄ったか。もし可能であればアンケートをして、その場でちょっと感想を書いてもらうようなことがあれば、それに基づいて来年度どうしようということができる。</p> <p>パンフレットも評価が必要だと思う。こういうパンフレットを作ったが、見た方がどういった感想を持ったのか、そのあたりも何らかの方法でやった方がいいと思う。</p> <p>図書館もすごくいいことだと思う。手話コーナーを設置してその間貸し出しがどれだけ増えたのかということも図書館の方は把握していると思うので、やったことに対する反応、反響があってこそ来年度どうするのかということにつながると思う。</p> <p>それと、計画したけれどできていないというのがいくつかある。何故できなかったのか、できなかったのはどういうことが原因で、</p>

	<p>その原因を解決して来年度こうやりますというのであればよいが、未実施というのがいくつかあるので、それについても評価が必要ではないかと感じた。</p>
会 長	<p>是非そのことも頭に入れて今後進めていってほしいと思う。</p>
委 員	<p>今日、西脇市身体障害者福祉協会の定時総会があり、そこで来賓があいさつを手話でしてくださった。実際に西脇市で手話が広まっているんだなと実感した。</p> <p>別の話になるが、手話サークルわかばに協力いただき、聞こえない人が客として行った時にコミュニケーションに困らないように、意思疎通のためのホワイトボードをお店に配布した。そのお店に行った時に、私は耳が聞こえないと伝えると、すぐにそのホワイトボードを持ち出してコミュニケーションができた。とても嬉しかった。私達からも働きかけることが必要なんだなと思った。</p>
会 長	<p>広報をととても上手に作ってあるなと思った。最初開いたところも魅力的な写真で西脇市の素晴らしさが出ている。高校生が言語聴覚士を目指しているとか、手話通訳士のことを広報に載せているのは他の市にはないと思う。</p> <p>ユーチューブも実際に高校生が顔を出して動画に出ているというのは兵庫県の他の市では見たことがない。西脇の素晴らしいところだと思いびっくりしている。そういう取り組みが、西脇市の素晴らしいところだと思っている。</p> <p>また、今年度も昨年同様、教育現場でも継続することは、すごく大事だと思う。先ほど話があったとおり、補聴器を付けていたら聞こえるんじゃないかと誤解を受けるとか、あいさつをしたのに何か無視をした、失礼な態度をしたと誤解されるのが聴覚障害者である。そのあたりを含めて、子ども達にきちんと伝えていただければありがたいなと思う。</p> <p>そういうことを踏まえて、さらにいい西脇市のまちづくりにつながっていくと思う。子ども達が将来大人になった時に、西脇市を支えていくそういう人材になるわけです。</p>
委 員	<p>先ほどサークルと協力してホワイトボードを飲食店とかにお配りしましたという話があったが、その中でちょっと残念なことがあつ</p>

	<p>た。それは、全国展開のチェーン店のお店2件に断られた。西脇市の店舗だけで判断できないので、店長の判断で受け取ることが出来ないとのことだった。そういう縛りのある所は、何らかの上の方から降りてくる系統の方法でしかないのかな感じた。聴覚障害者に対してその人が理解があったとしてもそういうことが広がりにくいみたいなことを経験させてもらったので報告しておく。</p>
<p>会 長</p>	<p>今の話は、行政の方から働きかけてほしいと思う。障害者差別解消法という法律があるので、会社に対してお店に対してきちっと行政の方から伝えていただくと嬉しいと思う。</p> <p>では、次に進んでよろしいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議事項(2)について、事務局から説明を願う。
<p>事務局</p>	<p>(2) 平成30年度手話施策の計画について説明</p>
<p>委 員</p>	<p>■協議事項(2)に関する質疑応答</p> <p>市民にも手話のことが広がっていると確かに思う。高校生に協力いただいたので、興味が広がり、手話言語条例のことも知っている学生さんがたくさんおられてすごく嬉しく思っている。</p> <p>30年度に関しても、色々継続実施の事業が多いようだが、計画していただいているので嬉しいと思っているが、先ほど副会長も言われたように、実績を評価して次どうするのか。5年後どうなっているのかという展望がないので、協力しにくい。手話体験コーナーも、市民にもっと広くするなら場所を変えていくのか、ずーっと市役所でやっていくのか、また1年ごとに考え直すのかとか、その辺を全然お知らせいただかないままに計画を進めていただいても、私達もどうついていったらいいか、協力の仕方が分からないので、計画案の5年後の展望をお聞かせいただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>手話体験コーナーに関しては、昨年度の秋から始めてまだ1年もたっていないので、現状の回数で市役所で実施していきたいと考えている。庁舎が移転することもあり、実績を見て、評価をして今後どうするのかということを考えていきたいと思う。今年度から市広報に掲載してしっかり実施しているということをPRしていきたいと考えている。</p>

委員	30年度が終わったら一回見直すということか。
事務局	毎年、1年1年評価していく。
委員	市の方で見直してこれでいきますってなれば、協力をお願いって手話サークルとかに言うてくるのか。協力者の意見を求めるというようなことはあるのか。
事務局	29年10月からサークルと協会の方にお世話になりながら試行錯誤的な所でやっていただいているのが現状だと思っている。30年度についても現状でやっていく中で、やはり協会やサークルと意見を交換しながら、決して市が決めてしまうということではなく、何の事業に対しても改善するところは改善し、より良い活動になるようにしていきたいと思っているので、皆さんの意見を広くいただきながらやっていきたいと考えている。先ほど5年後という話になったが、言われるように協力していただく方が今後の夢が見れるよう、こうなったらいいなということが描けるよう一緒に考えていき、お示しながら活動できたらと考えている。
委員	とりあえず、今年の手話体験コーナーの目標を教えてください。
事務局	現状の数よりはたくさん寄っていただけるような工夫をしていくというのが今の目標だと思っている。
委員	まず、PRの部分で子ども向けに配布するクリアファイルがすごく良いと思う。もっとPRとして広げて子どもだけでなく大人にも配布してもいいと思う。 それと、小中高での福祉学習が継続してあるが、福祉体験として1回限りの講座ということになる。皆さんの話も子どもの手話の学びが大事だということだったので、教育現場で手話を入れていくのは難しいという話が以前の会議でもあったが、何か策が反映できたらなというふうに思った。 市職員対象の講座で、巡回する部署を拡大するということがあったが、設置通訳者が出ていく機会が多くなって大変じゃないかと思った。設置通訳者は今年度も1名体制なので、ろう者の方が市役

	<p>所に来られた時の対応をどうしていくのか、検討した方がいいのかなと思った。</p> <p>あともう1点、事業所対象の講座で申込み状況に就労継続支援B型事業所とあるが、私も関わっているケースで、ろうの方が作業所に行かれて、その作業所が聴覚障害の方を受け入れるのは初めてということで講座を開いていただいた。講座をしてもらってからは、抵抗なく聴覚障害の方の受け入れもできるという自信になったとの話もいただいた。こういう事業所が増えていけば聴覚障害の方の行く場所も増えていくと思う。</p>
委員	<p>紙を配らせていただいてもいいか。</p> <p>子ども達に対してこういう問題を考えさせていくことの必要性は議論するまでもないところだと思っている。それは、学校であったり家庭であったり地域であったり、それぞれが何ができるかということを考えたいなと思っている。</p> <p>実際は学校で子ども達がどのような生活を送っているかということ少し見ていただくためにその2ページ、3ページを出したところだが、本当に子ども達に長く計画的に継続的に学習させるためには、子ども達がどんな生活を学校で送っているかということを知っていただくのがまず大切だと思ってお出しした。具体的には、道徳の時間というのは、資料を使っているような問題を頭で考えなさいという時間なので、もちろんこの障害の問題も取り上げているところであるし、具体的な体験の場ということになると、総合的な学習の時間があげられる。そこに書いているように、各学年において総合的な学習の時間が年間決められているので、その時間を色々な課題を割り振りながらできるだけたくさん課題をやりたいと思っている。こうやって限られた時間でやるということ考えた時に、皆さんがおっしゃるように具体的なテクニックはもちろんですけど、こういうことに敏感になる子どもらの人権感覚を育てていくということも大切だというふうに考えて、そこをまず学校では大きな目的の一つとして考えたいと思っているところである。</p>
委員	<p>聴覚障害を持つ親類が、ろう学校から帰ってきて、私が子どもの頃に家にいた。手話を使うなというような環境にいて、大きな口を開けて話しをしたら口が読めた。私が立ち寄るんじゃなくて、私達の方の勉強してくれていたのが助かっていたんだと感じる。</p>

その親類が、骨折をして病院に入院をしたことがあった。私は、その時に「耳が聞こえないんです。だから迷惑をかけると思うけど、よろしくをお願いします。」と看護師に言ったが、マスクをしたまま耳元へ行って話をする看護師の行動に涙が出た。私は、スケッチブックに「オムツ替えます。」「検査行きます。」などを書いて「これを見せてください。」という手段をとった。しかし困ってしまい、自費で垂水の方の手話通訳の方についてももらった。それでもどうしても施設に入らなくてはいけないという中で、淡路ふくろうの郷に入所し、人間らしい生活させてもらった。最後、そこで亡くなったが、本当に良かったなあと思っている。

それでいてこういう機会を与えてもらい、ひとつずつでも私も手話を覚えていかななくてはと思う。まして高齢者にとっても耳が遠くなって通じない時に、手話というのが身につけていたら分かるだろうと思う。だから、先ほど今後どうなんですかと言われたが、5年後にはそれが当たり前の生活になっていけるようになったらいいと思っている。

それと、30年度事業に日野こども園が入っていたが、こども園の方にも広げていけばいいと思う。子どもはすごく速く、歌と一緒にグーチョキパーで何つくろうでも一緒だ。小さい頃から習慣というのをつけていくことができたらいと思う。

委員 話を聞かせてもらい、色々ご苦労されているのだなという感想だ。今、会議所では手話のチラシ配布だけのご協力ということで、他にもできることがあれば、できるだけ積極的に協力させていただきたいと思っている。

委員 私は、全く手話を知らずに育ってきた。父親も母親も学校の先生も手話のことを全く教えてくれなかった。校長先生と担任の先生が話をされても、私には内容が分からない。小学校1年から中学校3年生までずっとそういう中で過ごしてきたので楽しい思い出は、ほとんどないような状態だ。

今の時代でも聴覚に障害を持った子ども達が手話ができているのか。その子ども達に対して皆さんはあいさつをされるのか。その子ども達は、今学校が楽しいのか。困っていることはないのか。そういうことを聞かれているか。

自分の思い出で、教室の中で他の生徒と同じように勉強したいと

	<p>いう気持ちがあったが、音楽の時間にリコーダーを吹く時に、それが自分ではできなかった。リズムも分からない。先生に吹く真似をしなさいと言われて自分は我慢して言われたとおりにしたが、終わった後、隣の子から何で吹かへんねやみたいなのを言われた。</p> <p>先生から冗談とか面白いことを言われても、僕は笑えない。皆は笑っているが、何で笑っているんだろう。自分も真似して笑った振りをするけど、実際に面白くて笑っているのではない。学校の教室の中で少しでもいいので手話教育というものも含めてほしいというのが私からの願いです。</p>
委 員	<p>実は私、委員の中学校の1年後輩と一緒にテニスをさせていた。先輩はお忘れかもしれませんが。ただ、私は手話も分からなかったのも、その時は何か身振りで手振りで伝えていたことしかなかったが、私や部員は先輩に対して偏見なり何なりを持ったことは一度もないという記憶がある。</p> <p>特別支援教育については、今もまだまだ発展の途上であり、当時、先輩にずいぶん不自由な思いをさせたなということは想像がつく。だから、そのことについては、これからもっともっと研究すべきだと思うし、併せて私達が当時過ごしていたようにやっぱり可能な限り一緒にということは少し頭に置きながら進めたいと思う。</p>
会 長	<p>先ほど、委員の方から学生時代の話、苦しい思い出の話があったが、先生の立場で差別をするつもりはないというのは当然だと思う。</p> <p>けれども、聞こえない子どもとしては、聞こえる者たちの中でのいるというのはとても苦しいものがある。これから大人になって高齢になった時にも、もし社会が変わらなければ、先ほど苦しい経験をされた高齢者の話もあったようになると思っている。コミュニケーションもなく悔しい思いをしたまま、人としても認めてもらえないまま孤独に生きることでいいのか。生まれた時からずっと死ぬまでの間、そういう人生でいいのか。それは人として扱ってもらっていないという話になる。</p> <p>そのあたりも頭に留めておいて、教育というと確かにカリキュラムを変えなければいけなくなり大変だが、手話を幅広く、どういふふうに進めていったらいいのかということを出席の委員の皆さんからまた意見をいただきたいと思う。</p> <p>他に何かご意見はないでしょうか。なければそろそろ</p>

委員	<p>また話を蒸し返すみたいで申し訳ないが、今度第2回目のこの会議がある時には、是非この資料に市の目標を、この施策を結局どうしたいのか。夢物語でも心意気でもいいので、必ず書いたら実現できるとは思っていないが、書いていただくと、私達も市の考え方がよく分かってくると思うのでその欄を作ってほしいと思う。</p>
会長	<p>他はないか。 では、これで全ての協議事項は、終了したので、事務局の方から、何かあるか。</p>
事務局	<p>次回の開催予定は、10月頃に実施したい。 先ほど先生から、また委員の皆さんからもいただいた意見も参考にしながら、次回の資料作りについては改善していきたいと思っている。 他になければ、本日の会議は終了したいと思う。 閉会のあいさつを鳥越副会長にお願いします。</p>
副会長	<p>今日は、活発な意見が出た。いくつかキーワードがあると思う。 1つは夢。ただ夢というのは、先ほど言われた5年後どうするか。それは市が決めることでもない。手話言語条例を創った市民が中心になり、ここに住んでいる方々が、しっかり夢を実現化するための1年1年であると思う。ここにいる当事者の方、手話サークルの方、手話関係の方々が、もう一度手話言語条例を見て、自分達の夢、どういうふうな西脇市にしたらいのかということを作り、それをこの会議の中に出していくのが一番いいと思う。 それと、やっぱり教育というのはキーである。それを手話関係者、手話に関わる人達は皆、教育というのはキーになっていると認識している。手話言語条例というものを西脇市で制定したからには、教育も巻き込んでやっていくということは必要である。忙しいからできませんとかということではないと思う。 特に、先ほど委員から話もあったように、聴覚障害の成人の方にとって、自分の子ども時代っていうのは不運というか、もどかしさをずっと感じてこられたのは現実であるし、恐らく今難聴の通常の学級にいる子ども達も似たような環境にあると思う。だから、授業の中、あるいは学校の時間を使ってっていうのは、すごく限界があり、やはり福祉教育レベルにとどまってしまうと思うが、色々工夫す</p>

れば戦術的に色んなことができるのかなと思う。

この1年間で西脇市が非常に一生懸命やられている一つのプラス面として見える化をされている。広報紙、ユーチューブで動画配信、市役所での手話コーナーなど、色んな形で見える形をしているので、難聴児を持つ親御さんや当事者がそれを見て、それなりに自分の次のステップにしていくということで、とりあえずはやっていくということも一つの方法かと思う。できるだけ見える化をしていくというのが一つの大きな戦術になると思う。そういうことに向けて、今年度の実施の評価をする、あるいは来年度以降にする、5年後の夢の実現のためにそういうことを積み上げていくというのが、誰でもできることではないと感じた。

長くなったが、また次回を楽しみにしたいと思う。今日はどうもありがとうございました。

事務局

これで会議を終了する。